

## 学習課題

## それは本当に事実？！ 事実を考え、根拠の説得力を高めよう

本単元で育成する資質・能力

(学校) 主体性、コミュニケーション能力

1 日時 令和7年10月17日(金) (12:30~13:20)

2 学年 第1学年2組(33名)

3 場所 新館3F 1-2教室

4 単元について

## ○ 単元観

本単元は、中学校学習指導要領国語編第1学年〔知識及び技能〕(2)情報の扱い方に関する事項ア「原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること」〔思考力、判断力、表現力等〕B書くこと(1)ウ「根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること」の内容を受けて設定したものである。根拠とは、考えや言動の拠り所となるもののことを指す。また、根拠を明確にするためには、まず、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確かめることが必要である。その上で、自分の思いや考えを繰り返すだけではなく、根拠を文章の中に記述する必要があることを理解して書くことが重要である。本事項は、2年生では「根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりする」こと、3年生では「表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりする」ことに続き、根拠の客観性、妥当性を高めていくことにつながっている。

本教材は、根拠を明確にする方法の一つとして、事実や理由づけについて考えさせる教材である。意見の正しさや有効性を証明する根拠は、意見の信頼性を高めるためにある。事実が明確な根拠となる事実になっているかを吟味・検討させることで、根拠を明確にすることに適した教材である。

## ○ 生徒観

本学級の生徒は、授業に一生懸命取り組もうとしている。「学習内容を理解しよう」「考えよう」という意識で授業に取り組んでいる生徒が多く、1学期のアンケートでは、「国語の授業は、『できた』『わかった』と感じることがある」に肯定的な回答をした1年生の生徒は97%であった。一方、「授業の課題について『なぜだろう』『やってみたい』と感じることがある」に肯定的な回答をした生徒は65%と低く、学習課題の質が問われている。

調査問題	内容	正答率
令和7年度 標準学力調査 国語 1年生	目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように工夫している	56.1%
令和7年度 全国学力・学習状況調査	文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができる	17.4%

今年度4月に実施した標準学力調査では、「目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように工夫している」は校内正答率が56.1%と低く、無回答も13.6%と高い。令和7年度実施の全国学力・学習状況調査でも、「文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる」問題の全国正答率が17.4%と低い。これらのことから、根拠を明確にするためにどのように思考を深め、どのような見方、考え方をすればよいかということが定着していないことがわかる。令和5年度の全国学力・学習状況調査の報告書においても、本項目が課題とされており、指導改善のポイント

トとして「話や文章に含まれている情報と情報との関係を捉えて理解したり、自分のもつ情報と情報との関係を明確にして話や文章で表現したりすることが重要になる。そのために、『原因と結果』『意見と根拠』『具体と抽象』などの基本的な情報と情報との関係について指導することが大切である」と整理されている。

1学期に実施した記述の問題や作文等においても、ナンバリングは定着しているが、根拠は羅列するだけで、客観性に乏しい実態がある。説明文の学習後に「野菜の知恵」についてプレゼンテーションを作成・発表させた。なぜその野菜を選んだのかという理由が「好きだから」等の深まりのないものになっている生徒の割合が79%であり、根拠を明確にすることに課題がある。

○ 指導観

指導にあたっては、根拠の明確さを高めるために、根拠として誰もが納得するような事実を考えさせる。なんとなく事実だと思っているものを、集団で吟味・検討させることで既存の考えを揺さぶり、興味を持たせたい。人によって異なる考えではなく、誰が見ても変わらない事実を示すことで根拠を明確にさせる。さらに、その根拠（事実）と意見がどのように結びつくのかを理由づけとして考えさせ、意見の説得力を高めさせたい。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本単元においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

授業の展開の場面 (ミニホワイトボード等を使用して)	資質・能力	意欲・態度	知識・スキル		
		主体性 (自己を認識する力、 自分の人生を選択する力)	コミュニケーション能力 (表現する力)		
レベル1	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。	(書く・話す・表現 speak) ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	(聞く) ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問することができる。	
レベル2	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。	(書く・話す・表現 tell) ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	(聴く) ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて、内容を深めるために、質問ができる。	
レベル3	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。	(書く・話す・表現 talk) ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	(訊く) ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。	
レベル4	やりたいことを自ら見つけ、分析し、(大人の手も借りながら)自分たちで実行できる。	少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。			

6 単元目標

- (1) 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。  
【知識及び技能】
- (2) 根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。  
【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。  
【学びに向かう力、人間性】

7 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。	「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。	意見と根拠と理由づけの関係について、学習したことを生かし、根拠を明確にして自分の意見を書こうとしている。

8 指導計画 (全6時間)

教科・領域の本質的な問い

明確な根拠とは、どのような根拠なのか。

時間	学習課題 ねらい 指導内容	重点	記録	生徒の行動・思考	評価 〔評価方法〕
単元を貫く問い 根拠の「明確さ」とは何だろう					
1	<p>学習課題：それは本当に事実?! 事実を考え、根拠の説得力を高めよう。</p> <p>ねらい：意見の根拠を明確にすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見と事実を結ぶ理由づけの関係を整理させ、根拠の客観性を高めさせる。</li> <li>・自分の意見を支える根拠として、事実と理由づけがあることを理解させる。</li> </ul> <p>(本時)</p>	知	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事実に客観性があるか吟味・検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事実の客観性について吟味・検討し、根拠を明確にしようとしている。</li> </ul> <p>〔ワークシート〕</p>
2	<p>学習課題：課題を決め、調べよう。</p> <p>ねらい：事実を根拠として示し、適切な理由づけを考えることで、自分の考えが伝わる意見文を書くことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見文の課題を決めさせ、資料を収集、整理させる。</li> </ul>	思		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の資料などを参考に、課題を決める。</li> <li>・決めた課題に合った情報を集める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を決め、情報を集めている。</li> </ul>

3 ・ 4	<p>学習課題：集めた情報を整理し、構成を考えよう。</p> <p>ねらい：事実を根拠として示し、適切な理由づけを考えることで、自分の考えが伝わる意見文を書くことができる。</p> <p>・集めた情報を整理させ、構成を考えさせる。</p>	思	○	<p>・集めた情報を、比較・分類・関係づけなどにより、整理する。</p> <p>・書く内容と順序を考える。</p>	<p>・集めた情報を整理し、見通しを持って書く内容を考えている。 [ワークシート]</p>
5	<p>学習課題：根拠を明確にして意見文を書こう。</p> <p>ねらい：事実を根拠として示し、適切な理由づけを考えることで、自分の考えが伝わる意見文を書くことができる。</p> <p>・事実と理由づけを吟味・検討させ、意見文を書かせる。</p>	思	○	<p>・事実と理由づけを吟味・検討し、まとめる。</p> <p>・根拠の明確さについて、助言し合い、推敲する。</p>	<p>・自分の意見が伝わるように事実と理由づけを検討している。 [ワークシート]</p>
6	<p>学習課題：意見文を発表しよう。</p> <p>ねらい：事実を根拠として示し、適切な理由づけを考えることで、自分の考えが伝わる意見文を書くことができる。</p> <p>・意見文を読み合わさせ、助言し合わせるとともに、学習を振り返らせる。</p>	主	○	<p>・意見文を読み合う観点を確認する。</p> <p>・グループでレポートを読み合い、よい点と改善点について伝え合う。</p>	<p>・根拠の明確さについて、助言をもとに自分の意見文のよい点と改善点を見いだしている。 [振り返り]</p>

## 9 本時の展開

### (1) 本時の目標

- 意見を支える根拠として、事実を考えることができる。その事実と意見がどのように結びつくのか、理由づけを考えることができる。

### (2) 本時の評価規準

- 事実の客観性について吟味・検討し、根拠を明確にしようとしている。

### (3) 準備物

- クロムブック・ワークシート

(4) 本時の流れ (1時間目/全6時間)

過程	□学習活動 教師と生徒のやりとり	指導上の留意事項 (○) ・予想される生徒の反応 (・)	評価規準〔観点〕 ★資質・能力 【評価方法】
<b>1 学習の見通しを持つ 5分</b>			
導入	<p>□根拠となる事実について、それが事実かどうか考える。</p> <p>教師 事実とは何ですか。            生徒 実際に合ったこと。            生徒 本当のこと。            生徒 現実に起こること。            教師 これは事実ですか？            教師 「りんごは甘い」            教師 「りんごは赤い」            教師 「今日は10月17日だ」            教師 「今年は暑い」            生徒 事実です。            生徒 事実ではありません。            教師 では、どういうものを事実というのですか。自分の意見の説得力を高めるために事実の精度を高めていきましょう。</p>	<p>○様々な事実や事実のような曖昧な表現を示すことで課題へ興味を持たせる。</p> <p>○事実について考えさせることで生徒の固定した概念を揺さぶる。</p> <p>○様々な事実をスライドで示し、事実とは何か考えさせる。</p>	<div style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;">導入の工夫</div> <div style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block;">ICTの活用</div>
<b>2 学習課題について考える 30分</b>			
展開	<p>□学習課題 学習課題：それは本当に事実?! 事実を考え、根拠の説得力を高めよう。</p> <p>ねらい 意見の根拠を明確にすることができる。</p> <p>□自分の意見を支える根拠として、事実と理由づけがあることを理解する。            教師 意見を支える根拠について事実と理由づけという二つをつなげることで説得力を増していく考え方があります。            □課題について個人で思考する。            「刑事は犬を飼うべきか、猫を飼うべきか」            「昼食は給食にするべきか、弁当にするべきか」            「修学旅行はバスで行くべきか、新幹線で行くべきか」という意見を主張するための事実を考える。            生徒 犬より猫の方がかわいい。            生徒 犬はえさをやる必要がある。            生徒 刑事は忙しい。            生徒 犬は散歩をさせなければならない。            生徒 猫を好きな人が多い。</p>	<p>○スライドで意見・事実・理由づけの関係について説明する。</p> <p>○一人一人にじっくり考えさせる。</p> <p>○個人思考の時間を確保する。</p> <p>・「意見・事実・理由づけ」の例を提示することで事実について考えさせる。</p>	<div style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;">ICTの活用</div> <p>事実の客観性について吟味・検討し、根拠を明確にしようとしている。 〔ワークシート〕</p>

<p><b>生徒</b> <b>教師</b></p>	<p>猫は散歩をさせなくてもよい。 その事実から意見をつなげる理由づけを考えましょう。</p>		
<p><b>生徒</b></p>	<p>刑事は、犬より猫を飼うべきだ。 猫は散歩をさせなくてもよいという事実がある。この事実から、なぜ猫を飼うべきかという、仕事で家を空けることが多い刑事は、毎日散歩をさせることは難しいからである。</p>	<p>○意見と事実を適切に結びつける理由づけになっているか、検討させる。</p>	
<p><b>生徒</b></p>	<p>刑事は、猫より犬を飼うべきだ。 猫は散歩をさせなくてもよいという事実がある。この事実から、なぜ犬を飼うべきかという、体力のいる刑事は犬と散歩をして体を鍛えた方がよいと考えたからである。</p>		 
<p><input type="checkbox"/> グループで意見・事実・理由づけについて検討する。 <input type="checkbox"/> 各グループで精選した内容を発表する。</p>		<p>○理由づけが適切になっているか、考えながら聞かせる。</p>	

### 3 まとめ・振り返り [15分]

<p>ま と め</p>	<p><input type="checkbox"/> 各グループの発表を検討する。 <input type="checkbox"/> 教師の説明を聞き、本時のまとめを行う。</p>		<p>事実の客観性について吟味・検討し、根拠を明確にしようとしている。 〔ワークシート〕</p>
	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見を支える根拠には事実と理由づけがある。</li> <li>・事実は客観性を高めると根拠の説得力が増す。</li> <li>・事実と意見を適切に結びつける理由づけを考えることで、根拠が明確になる。</li> </ul>		
	<p><input type="checkbox"/> 次時の内容を確認する。 <input type="checkbox"/> 学習課題に対する授業の振り返りを行う。</p>		
	<p>【予想される生徒の振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠を明確にするために、根拠を事実と理由づけに分けて考えればよいことがわかった。</li> <li>・根拠を明確にするために、事実の客観性を検討することが大切だとわかった。</li> <li>・意見に説得力を持たせるためには、客観性のある事実を意見と結びつける理由づけを考えることが重要だとわかった。</li> </ul>		

(5) 板書計画

意見と根拠

学習課題

それは本当に事実？！事実を考え、根拠の説得力を高めよう。

ねらい

意見の根拠を明確にすることができる。

意見・事実・理由づけ(根拠)

刑事は、犬より猫を飼うべきだ。猫は散歩をさせなくてもよいという事実がある。この事実から、なぜ猫を飼うべきかというと、仕事で家を空けることが多い刑事は、毎日散歩をさせることは難しいからである。

刑事は、猫より犬を飼うべきだ。猫は散歩をさせなくてもよいという事実がある。この事実から、なぜ犬を飼うべきかというと、体力のいる刑事は犬と散歩をして体を鍛えた方がよいと考えたからである。

昼食は給食にするべきである。給食は

昼食は弁当にするべきである。給食は

修学旅行にはバスで行くべきである。バスは

修学旅行には新幹線で行くべきである。バスは

まとめ

- ・ 意見を支える根拠には事実と理由づけがある。
- ・ 事実は客観性を高めると根拠の説得力が増す。
- ・ 事実と意見を適切に結びつける理由づけを考えることで、根拠が明確になる。